夕刊 磐城新聞
十月一日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢(郵稅拾五錢)
廣告料 普通 金六拾錢
發行所 磐城新聞合資社
(日曜祭日翌日休刊)

稚内(三)

山崎剛平

――折角提げ歩いて來たのだから、とセルを着て、釜の湯の沸る爐邊に坐つてみると、それで恰度いゝ程な氣溫だ。私たちはわざと埋火を掻きおこしてみたりしながらだん〲暗くなつてゆく室に何だか愉快な思ひで坐りつづけてゐた

――が、湯に入つてからは流石に暑く、も一度セルを着てみる茶目氣はなくなつた。――私たちはおしやべりを初めた

『啄木の歌にかういふのがあるんだ。あはれかの、國の果にて酒飲みき、悲しみの滓をすする如くに。――知つてるかね』『知つてる それは多分釧路の方のことだらうが國の果といふ感じは多分こゝの方が深いだらう。ここのことだと一層いゝ歌になるがなあ』『我々國の果までやつて來たんだからもう澤山だ、樺太へ渡つてもどうせロクなことはないよ、明日引返さう。』『うん。船が出ないなんて樺太へゆくなといふことだそろそろ風の季節になるからね』『ところで、國の果にて酒飲みき、つていふんだから此處で一杯飲むか!』

しやべつてゐるうちにさういふ話になり、善は急げで直ぐ宿の番傘を傾けて雨の夜道を進んでいつた。番頭に敎へられた通りに歩いてゆくと、その家は新築の大きな家だつたが、雨のためか內はひつそりしてゐた私たちは廣すぎる室の床の前に据ゑられ、二人の年增女と對座して飲食を初めたが、廣すぎるのと、吹降りの音や浪の音などでいつまでも落付かず、ともすると逆に滅入り込み勝ちだつた女たちも少し馬鹿かと思はれる程ゆつくりしてゐて、口も重く、無愛想だつた

歸りは一層吹降りがひどく、尻からげて及び腰になつて歩いても肩先まで濡れてしまつた

樺太行を思ひとゞまつた私たちは札幌まで引返して一休みし、それからいよ〲道草くひながら歸途につくことに決めた。そして先づ小樽へ立寄つた。すると一週一度の樺太行の船が恰度出るところだつたので俄に豫定を變へてそれに乘込んで了つた

磐城歌壇

新妻久滿男選

『海の歌集より』 諸橋一夫

○磯かげのよとみせにもゆみどりものしほわき立てばくろひうごめく
○なみはてはけぶり夕をいそぐなるほぶねゆらげり白鳥のごと
○入り濱にきり立ちこめて朝じほに桶さぐる子のながくし見ゆも
○海の子のきららにはゆるしほあびによろこびわめくせなの黑けし

『秋の歌集より』

○つれづれの旅路もはてゝほろろなく虫聲きけば故郷戀し
○行きくれて秋の夜さむの辻に立つさびれし影の雨にぬれけり
○うつろなる心に虫の音さびて窓邊の秋はしづ更けにけり

作者の自選歌である。少々くどい處はあるけれども大体纏つてゐる。一首、一首の評をさけるが、もう少し詞のすいかうといふ點に注意をはらつていただきたい 第一首は一寸不明な處があるし、第四首『海の子の』も上の句は再考すべきである。

躍進の簡保と郵便年金

(一)

三十五億突破

全國各郵便局に於て取扱ふ簡易保險は、本一日を以て創始滿廿周年、またその姉妹制度たる郵便年金は創始十周年を迎えることゝなつた

◇

我が國に生命保險制度が始めて實施せられたのは――今より五十六年前、即ち明治十四年に民營事業として營まれたのであるが、其の後經濟事情の變化、殊に日清、日露の兩役は經濟、思想、其の他總ゆる方面に急角度の轉機を來し、愈々生命保險制度の重要性に拍車を加へ、しかも最も國民の大多數を占むるところの中產階級以下の人々の生活安定策として之が必要を頓に加へて來たが、民間會社は營業上自然その對象が比較的上流に限られて、この多くの人々は生命保險制度の均霑に浴することが出來ない狀態にあつたので、國家に於て社會政策的見地より直接經濟の必要を痛感し、茲に大正五年十月一日に政府事業として、之等庶民階級を對象とする絕對非營利の小口生命保險たる簡易保險が實施せらるゝことになつたのである。爾來二十年間事業當局者たる遞信省は國民と協力之が普及發達に鋭意努力を續けて來た爲に今日では加入件數實に二千五百萬件、保險金額三十五億圓を突破し、其の普及率は全國を平均して人口一千人に對し三百三十五件を超ゆると云ふ世界に誇るべき躍進振りを示すに至つたものである

◇

この間簡易保險事業は國民生活の安定向上と社會福利の增進と云ふ制度根本の使命に立脚して着々改善充實を圖つて來た

煙突

草間桔梗

仰げは
地上數十尺
黎明の蒼空
湧き上る光の中
新鮮な朝風に
肅然とそゝり起つ
一大幾何の構成
その威容――氣魄
無言の英雄
燃えしきる黑ダイヤ
間斷なき烟煙
工場の生命を支へて
中空に莞爾たり
見よ巨人の精魂
これぞ護國の砦
吾等の誇り
威激の源泉
讃へよ
天空の巨人
其の勳し――技――
投影又偉大なり

湖上月夜

珠雲 小野務平

萬頃平鋪霞浦波
回心有友與如何
一痕明月數行雁
舟逐流光詩思多

10月2日
△江戶大地震死者廿萬人(安政二)△人身の賣買を禁す(明治五)

小說 高橋是清

(132) 松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

實業界第一步(一)

家具の配置其他の取片付けが殘りなく濟んで見ると、これまでの家とは比較にならぬ程の小さな家だが、決して居心地は悪くなかつた唯何となく左右の壁がぐつとのしかゝつて來るかのやうな感じからは免れ得なかつたが

大塚窪町の小貸住宅――家賃は六圓である。直ぐ前手の八番地にあつた邸は、地坪一千五百廿七坪の、相當廣大なものだつたが、ペルー礦山事業の失敗、それにつゞく、福島農場事業、上州天沼礦山事業の失敗に依つて生じた、一萬六千餘圓の支拂ひの、不足額に充當するために賣拂ひ、肩の重荷を下すと共に、全くの裸一貫となつて、移り住んだ家なのである

官途に再びつく事をすゝめて吳れる者もあつた。然し、今ではいつ官を辭しても差支へないだけの用意があつての役人生活であつたそれだけに國家に盡す一念たけで奉公が出來た。假令上官たりとも、誤りあれば敢然とこれを責る事が出來た

が、今はちがう

今官途につく事は、衣食のためである。從つて、時に意に合はぬ事があつたとしても、上官の命とあれば易々として服さねばならない。それは忍びない事だし第一國家に對する道でないさう考へて皆拒絕して了つた

恩給年限には達してゐなかつたが官は非職で、向ふ三年間は俸給の三分の一は支給される。然しそれ以外の收入は皆無である。今にして家計の途を立てなかつたなら、一家の行く道は飢死以外にない(田舍へ引込んで百姓生活でも初めるより仕方があるまい)

が、何か諦めきれぬものがあつた。然し道は一つだ

――是淸は茶を啜りながら妻の手許に視線を投げた。柳子に死なれた後へ迎へた後添ひの品子は、毛糸編物の手を急がしく動かしてゐた。手內職なのである

その側で、十四歳になつた長男の是賢と、十歳の二男是福とが、仲良く一冊の書物を見入つて、時々微笑し合つてゐる

花のたよりが聞えてゐるのに戶外には冷たい風が吹いてゐた

『品子。是賢も是福も今日は是非話しておかなければならん事がある』

三人は默つて是淸を見上げた

『他の事ぢやないが……』

是淸は今日までの一切の事情を詳しく語つて

『この上は運を天にまかせ一家一體となつて、家運の挽回に務めなければならん田舍へ籠つて皆で働くのだ若しそれで駄目だつたら、皆わしと一緒に死んで貰ひたいのだ。が、それは、生きられるだけ生き、働けるだけ働いての後の事だ。判るかな』

言つて三人を見た

品子が

『判りました』

一言言つた

是賢は默つてゐた。と、突然是福が、元氣な聲で

『それならわしは蜆賣りをしてお家のために働きますわしは何でも出來るから』

昂然として言つた

『偉いの』

是淸はその肩を叩いて、微笑しながら、ふと、品子を見た

品子は泣いてゐた

『莫迦』

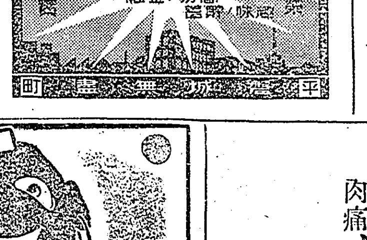
是淸が窘めるやうに、低い聲で言つた時、玄關の戶の開く音がした

『御免!』

品子が靜かに立上つた

『御免!居らんかな。御免わしぢや〲』

廣告



天下一品マツイ
素人料理
おでん 榮ちゃん
酒にやき鳥
冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町電一〇七

前田醫院

植田の新名所

鮫川川口に位置し四季の風光に富み眼下に太平洋を見晴し、白砂に緑の松林は實に天下の絕勝地の定評あり交通の最も便宜の位置にある鳴の湯鑛泉へ!

常磐線植田驛下車
…鳴の湯鑛泉旅館…
臨海館
植田町より十餘丁(自動車ノ便アリ)
鮫川橋より當館迄は(モーター舟)の連絡貸ボートあります。

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

反應卽座、即時乞御試
オレンヂパスタ
神經痛、リウマチス、咽喉痛、筋肉痛、肩のコリ、
桑原柔道整骨院
福島縣平町字新町二十二番地
電話六七四番

吸入用醫療器械
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
体溫器 寒暖計
◎秤ノ取扱・絲緒・修繕・垂糸・復シ致マス
開內藥局
電話四〇番

冬の通學服……秋冬背廣特賣

本年最底値段仕入
特賣期日:九月廿八日ヨリ

小學小倉				0.95ヨリ
セル				2.90ヨリ
サージ				3.70ヨリ
小學水兵				1.50ヨリ
セル水兵				2.80ヨリ
サージ水兵				3.50ヨリ
其他男女幼年柄服…………毛糸製品各種				
紺	黑	セル サージ	立エリ上下	7.50ヨリ
紺	黑	セル サージ	三ツ組	12.50ヨリ
柄ウーステツト			三ツ組	12.00ヨリ
【特價】				
バーバリー●レンコート				2.00ヨリ
セルトンビ				6.00ヨリ
外各種豊富				

斷然安い正札
信用堂洋服店
平町三丁目 電六一三

注文並に既製品
今秋流行物澤山入荷致しました
洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

難波醫院
內科 小兒科
入院應需
自炊の便あり
平町大町
電話五〇二番
(看護婦見習、看護婦募集)
醫學博士 難波睦

暴騰前の秋冬洋服
◇懸賞付特賣◇

◎新製秋冬紳士服御誂
御假縫付仕立入念奉仕!
一、背廣三ッ揃 金三十圓より
一、オーバ各種 金二十五圓より
一、モーニング一着 金四十五圓より
一、立衿一着 金十二圓より
一、二重廻一着 金二十七圓より
一、東コート一着 金十六圓より

御註文一着毎に抽籤券進呈(但シ金參拾圓以上)

感謝景品提供
(一等)モーニング及縞ズボン一揃分 一本
(二等)ラクダオーバ、コーチング一揃分 一本 二本
(三等)合背廣服生地一揃分 三本
(四等)當店發行金拾圓券一枚
(五等)カフスボタン一組宛
以上全部總當り

◎特賣期日 九月十五日より十二月三十日まで
◎抽籤發表 昭和十二年一月十五日嚴正に抽籤施行

福永洋服店
福島縣平町田町十九 末廣料理店前 電話二八二

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部一〇番)(本店二七番)

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

從來の私設組織から 在郷軍人 郡聯合分會公式化

六千四百人の大團体にどう響く? 勅令公布と地方關係

從來私設團体であつた在郷軍人會は此程勅令三六五號で公布された帝國在郷軍人會令が來る十一日施行されると同時に一ケ月以內に於て規約其他從來の在郷軍人會の組織內容を陸相の手許に提出し認可をうける制度に改められ全國の在郷軍人分會長も恰度地方の農會長消防組頭などのやうに公職として取扱はれることになつた、現在各町村及炭礦等に合計四十分會六千三百五十餘人の會員を擁する石城郡聯合分會でも近く福島聯隊區司令官によつて召集さるゝ聯合分會長會議で今後の會務細目等が定められ各町村分會に對する指導監督統制に關し一日の刷新が行はれ從來聯合分會の主なる事業なりし武術大會、講演軍事フヰルムの選擇等から更に竿頭一歩を進めた活躍に入るものと觀測される

明後三日迄に魁文堂へ申し込まれ度いと

應急肥料資金貸出

縣購聯からかねて中央金庫に申請中の十一年度短期應急肥料資金は左の如く融通決定した、この借入率は何れも日歩一錢一厘縣購聯はこれを所屬組合へ日歩一錢二厘八毛で貸付けるものである

◇一般肥料資金 玉川三、七〇〇 鹿島三、〇〇〇 高久一、三〇〇

出廻り漸く旺盛 植田繭市場に於ける 昨卅日來の活氣

昨卅日の植田繭市場は開場以來の高値と出廻り増加のため益々好人氣を呼び非常な活氣を呈したが、出廻りも茲しばらくは旺盛であらうと見られて居る

出廻り四八七貫 高値四圓七四錢 安値四、〇〇 駠四、五八 掛目三八

四倉市場

高四圓九十二錢

四倉繭市場昨三十日の取引左の如し

出廻一、八〇〇貫 高四圓九二錢 安四圓一〇錢 駠四圓七三錢

平町會

平町會は來月三日午後二時から開き高級助役設置に伴ふ廳舍增築其他を附議する

黑潮に躍る快報 秋刀魚の豐漁續く

秋嬉しい磐城丸の報告

過般來北海の漁場にある本縣指導船磐城丸はさんまを多く獲り過ぎて六十反の網を切り捨て大損害を受けたが同船の報告に依ると現在の漁場、金華山東北東四百五十浬の沖合は例年に比較し二百浬の遠距離に當つてゐるので先を競ふて出發した漁船は何れも漁場を捜すに苦心してゐるもので水溫は尚二、三度高いから海岸への接近は當分見込みなく本縣から出漁してゐるさんま漁船三十五艘の內大型漁船は僅か十艘に止り殘りの二十五艘は底曳網兼業の中型漁船であるから四百浬を越へる遠洋漁業に適せず漁場が金華山沖合に近づくのは十月下旬頃と見られてゐるから底曳網を兼ねた漁船は困憊し切つてゐる

尚は磐城丸の發見した漁場は魚群極めて濃厚なので此處暫くは豐漁が續くものと見られてゐる

底曳船出動 濱に活氣漲る

機船底曳漁業もいよ〳〵今一日から解禁されたので磐城各濱の漁船百二十三隻三千七十餘噸は一齊に出漁したが、平目、鮫等の雜魚は相當豐漁を豫想されるだけ濱は非常な活氣に包まれてゐる

大會出場を決める 郡下軟式庭球爭覇

來る四日磐中コートで

大日本軟式庭球協會平支部主催郡下軟式庭球選手權大會は來る四日の日曜をトし午前八時から磐中ABコートに於て開催するが、參加は三大炭礦、局、四倉セメント、平倶樂部、鐵道等三十組內外に達する見込で、來月中東京日比谷に於て催さるる大日本選手權大會への出場權を獲得する爭覇戰丈けに白熱の接戰を豫想されてゐる、因に出場希望の向は申込金一組六十錢を添へ

替玉で娼妓に賣られ 轉々世の荒波を泳ぐ

人生哀史 平署に縋る十九娘

數日前平署に救ひを求めて來た元平町才槌小路憲太郎事高橋竹四郎(五五)方女中伊達郡關本村大關金之助孫池田キヨ(一九)を同署渡部巡部長が調べるとキヨには次のやうな哀話がひそんでゐた

明した

清酒釀造巡回指導

全國酒類品評會出品の清酒釀造巡回指導は竹內、佐藤兩技師が左記日程により實施する

二日—平町 平窪村 高久村 內郷村

車中から脫出

賴る叔父御も喰はせ者

昨年六月中、キヨは金に窮した竹四郎の奸策により同人の內妻同町後藤ハル(四三)の一人娘タツノ(三三)の替玉に使はれ前借一千圓で千葉縣船橋町海神貸座敷業富久樓事山口傳作方に賣りとばされたが今年六月病氣だからと稱してうまく逃げ出しその足で東京救世軍本部に救ひを求めた、處が同所からハル方に知らされたので再び苦界に沈められる事を恐れたキヨは迎ひに來たハルと龜戶驛から乘車すると直ぐ飛び降りて行方を晦まし去月十八日に至つて遙々叔父に當る平町新川町野口金一郎を賴つて來平、身の苦しさを話したがこの叔父もキヨを喰物に一と稼ぎせんと前記富久樓方に密告して懸賞金百圓をねらつてゐる事を早くも察知したキヨは滯在一週間で再び虎口を逃れたものと判

高橋水戸で捕はる

昨夜平署に留置

キヨから一切を聽取した同署では直に叔父の野口を取調べる一方同部長と草野刑事は昨夜水戶に急行、同市信願寺町に石城商事株式會社を經營してゐる竹四郎を檢擧し本署に留置した

キヨは平町出町藝妓屋仲家方藝妓仲子の實妹で僅か八才の時竹四郎方の子守女として住み込んだものだが從來も酌婦等に賣り飛ばされた薄倖な女でキヨを賣つて私腹を肥した竹四郎は前記商事會社在水戸市向町一丁目飲食店を營んで豪奢な生活を續けてゐる

又ハルの一人娘タツノは現野口富輝(三六)にとつぎ子供二人の母であると

花嫁よ何處?

出稼ぎに行つて不明

箕輪村大利農大塚菊次妻山形縣東置賜郡吉野村周藏長女加藤光(二五)は今年四月末嫁に來て僅か二十日と經たぬのに福島に行つて製糸女工になると出掛けたまゝ行方不明になつたが今日になるも依然消息不明なので菊次はいま血眼でこの花嫁を探してゐる

徒弟の逆襲

刄物を揮ふ

平町材木町建具徒弟石田定(一九)—假名は三十日夜平館で映畫見物の歸途、內郷村坑夫野澤三太(一九)—假名外五名に喧嘩を賣られてドブの中にたゝき込まれたのに憤慨自宅から指物用の切り出しを携へて振り廻してゐたが平署員が驅けつけて事なきを得た

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晚は北の風晴 明日は北東の風晴後曇

平區略式一束

双葉郡川內村下川內自動車業横田安藏方助手宇澤重七(三三)同水野龜多治(二二)の兩名は去る八月十一日無免許で同村地內をトラック運轉して各科料十圓

◇

入遠野村入遠野平子金之助(五九)同村平子壽盛(四五)の兩名は昨年十二月から數回に亘り同村國有林より栗其他を盜伐して、金之助は罰金六圓、壽盛は同三圓

◇

小名濱町竹町自動車業馬上松太郎方運轉手茨城縣多賀郡華川村生れ滑川處平(二三)は去月二日助手の渡邊村中釜戶江尻濟(一九)に免許證を貸して植田町から平潟迄自動車を運轉させ科料十五圓

何れも平區で略式命令

老婆頓死

內郷村宮裁縫業窪田アサ(七六)は一日午前五時頃自宅で心臟痲痺をひき起して頓死した

贓品を鑄潰して 指輪に變造計劃

人絹の手長職工捕はる

川部村大字小川字前の內生れ傳松長男錦村昭和人絹職工鈴木五郎(三五)は去る三月下旬頃及び去月十五日の二回に亘り同工場內紡機台の金製紡口時價十四圓合計二十八圓を窃取何れも指輪に變造すべく計劃中を九日川島駐在巡査が檢擧、目下植田署に留置取調べ中である

高橋家不幸

榮子さん終に長逝

兩三日來危篤を傳へられた藤田女學校家事科擔任敎師(高橋町議長女大原虎二氏夫人)榮子さんは療養叶はず昨三十日午後八時終に長逝、明後三日午後一時白銀町の自宅出棺長橋町性源寺に於て佛葬を執行すると、行年三十二歲

榮子さんは縣立磐城高女より東京一つ橋女子職業學校、東京洋裁學校を卒業、大正十五年春より藤田女學校に敎鞭をとり、全校生徒から慈母の如く淑徳溫良の婦徳を慕はれてゐた現代的新進の女性で各方面からその早世を惜しまれてゐる

電話譲受けたし 又た借りてもよし 姓名在社

嬉しい秋

多彩な十月ごよみ

◇秋雨にかゝる前のからりと晴れた日和、野の秋は盛りである。萩や、桔梗や女郎花が繪よりも美しく、詩よりも風情がある、芒は穗に出、なびく尾花は銀色に光つて、その涯に沈みゆく夕日に眞赤だ——九月の月も昨十五夜の月を見納めにカレンダーは愈よけふから『秋十月』に進んだ

◇『颯爽とハイキング』四日の日曜には早くも茸の白岩や川前の溪谷に秋を探る雅客も見られやう、こ五月蠅い蚊軍に惱まされてゐた讀書子は『愈よシーズン到來……』とばかりに燈下の文『嬉しい秋』に違ひない机に嚙りつく

◇農家は帶入れの收穫期に入つて急に活氣が出る、猫の手も借りたい程の忙しさに續くちやなおばんちやんまで動員されて孫逹をおんぶしたり手を引いたりして頻りに氣を揉むのも『秋十月』の忙しさが領れるが繭の値がはすんで新米が出廻つて纏まつた現ナマが舞ひ込むんだからお百姓には『秋の喜色』が溢れ出る、二十七日が後の月、この夜大嚏に水はなを啜り上げながら吟情とやら云ふものを唆られる俳人もあらう

◇十五日は狩獵解禁——靜かな山野にこだます銃聲の響きと共に目を光らした獵犬が獲物を追つて躍り出す勇壯さは『秋ならでは……』の風景だ、これから一寸遲れて南下する秋刀魚は愈よホントウの味を出して食道樂連は大喜びだ、十七、十八の二日續きの休日には蒼白いサラリーマンの面にも

◇林には栗の實がゑんで落ち、しんとした靜かな空氣の中に葉が搖れる、風がそよぐ、突然銃聲が鳴つて演習の兵が突貫して行くを見るのは月もしまひな二十九日からの第二師團秋季機動演習である

新十月二日 金曜 舊八月十七日 丁巳 赤口 戌 要宿

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神 鑑

▲一白 油斷の生じ易き日氣をしめてとがめなきを期せ▲二黑 樂の途をえらみても知らず識らず苦に陷る日▲三碧 退縮せず萬事進んで効果あり但し細心なれ▲四綠 八方より誘惑の手ののび來る日動くは凶▲五黃 自儘の氣を生ずる時は物事失敗に歸す▲六白 口故に大事を敗る事ありもくするが安全▲七赤 ふはくの潮流にまき込まれぬ樣注意すべき日▲八白 高きに居て足元のくづれを生じ易し內外注意▲九紫 樂觀は大敵勉むれば大ていの難事も遂ぐべし

酒店員入用 二名 自轉車に乘り得るもの(青年、壯年各一名) 住込み、通勤、給料等面談の上 姓名在社

二日(小名濱測候所發表)

日出 五、三三 月出後 五、五六
日沒 五、二〇 月沒前 六、五一
滿潮前 四、一五 干潮前 一〇、二五
後 三、五〇 後 一〇、四五

廣告

磐城名物 靈峰羊羹 小川郷驛前 平屋賣店

井坂産科婦人科醫院 平町田町 電話五五九番

安齋外科醫院 平町田町 電四七五番

木村外科醫院 六丁目 電話三〇九番

大和田醫院 平町南町 電話一七〇番

高久病院 院長 高久忠 平町田町電五一三

吉田眼科醫院

大和田醫院 平南町 電一七〇

各科專門醫擔當 磐城共濟病院 院長醫學博士 長谷部喜久 平町・電話六四一

平みやげ
毎度有難う御座います 味覺の秋となりました 滋養豊富な ニコ〳〵のもち飴をおすゝめ致します。
御進物用箱入 ¥20 30 50 70 1.00
御下命次第迅速に配達致します。
平町新川町 ニコ〳〵飴本舖 電話四四九番

秋冬の優秀洋服地 Refinetex リフアインテツクス
新柄揃ひ……
青年向・中年向・老年向にヴアライエテイに富んだ柄
優雅で强靱……
全く素晴らしい品質で然も價格は他品より安い
他店ニテハ見ラレヌ高級舶來生地英國クロンビ社特選サンプル御利用下サイ。
大崎屋洋服店 平銀座・電話96

內外建築材建具材 磐城國平町(公園下) 入 阿部材木店 阿部好利 電話四九四番(改メ)

長女榮子儀病氣の處藥石効無く九月三十日午前八時死去致し候に付此段謹告候也
追て葬儀は十月三日午後一時自宅出棺長橋町性源寺に於て佛式により執行可致候
昭和十一年十月一日
平町白銀町
父 高橋龜松
夫 大原虎二
親戚 加藤丈夫
中島茂
總代 結城憲次郎
友人 鈴木辰三郎
總代 藤田榮助